

高めることにより、社会に貢献することが重要である。

平成28年保険改定と『訪問診療』

市川伸彦（附属歯科診療所）

2年に1度行われる社会保険診療報酬改定があった今年、改定の特色は、「在宅医療専門の医療機関」や「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の新設などにみるように、ハードルの高い施設基準による選別化、医療機関の差別化、機能分化、包括的管理の流れの強化であった。

それは、真の「かかりつけ歯科医機能」ではなく、行政の医療費抑制政策に沿う歯科医療機関を作り上げるものである。こういった中、訪問診療そのものへの評価であるはずの「訪問診療料」に焦点をあて、ここ10年間の改定における算定要件を含めた評価の移り変わりについて考えてみた。不合理な面がみられ、医療費の総額抑制と再配分、包括化という方向性が読み取れた。

今後は、当院のように、多人数で外来診療を行いながらも、訪問診療を多数行っている医療機関に、どのような響があるのか考えていく必要がある。

第81回（通算第164回）：2016年8月25日（木）

（座長：木暮ミカ）

生体技工専攻の臨床実習指導から学ぶ 歯科技工のポイント

飛田 滋（歯科技工士学科）

本学専攻科生体技工専攻は、現（平成28年度）教育課程において修了要件単位数59単位中、33単位を症例実習（臨床実習）に充てている。そのコアとなるものが1年次の歯冠修復技工症例実習Ⅰと有床義歯技工症例実習Ⅰであり、2年次の歯冠修復技工症例実習Ⅱと有床義歯技工症例実習Ⅱである。生体技工に進学する学生の目的として、歯科技工士免許を取得するまでの2年間の学習成果に加え、さらに臨床歯科技工技術の理論と実際を学ぶことが上げられる。

そこで自身臨床実習の指導を通して、学生がよく理解していないことや間違った手技を発見した。その主な内容として、有床義歯技工症例実習は①部分床義歯の設計手順が不明確②フラスコ埋没法の誤解、歯冠修復技工症例実習は①歯型トリミング方法

の不統一②円錐台の取り扱いの不備を挙げた。

本学生体技工専攻の臨床実習の意義として以下の3点をまとめた。①単に歯科技工装置を小綺麗に製作するのではなく、求められる多様な歯科治療に応えられる歯科専門知識を修得する②本科で修得した知識・技術をもとに、何故そうなのかを徹底的に理解し実践する③歯科材料の特性を理解して、自らの技工技術を工夫し創造する基盤を築く。

今後は本科の実習指導との連動性を考慮し、教員間でより実践に適応した歯科技工実習の指導方法について協議していきたい。

多様化する学生気質に対する対応と配慮

山田隆文（歯科衛生士学科）

平成15年より、歯科衛生士学科1年生の医療倫理学（平成29年からは歯科臨床の基礎の中に医療倫理、人間と社会生活の中に行動科学として包括された）の講義の中で、学生自身が自分のキャラクターを知る一助として、エゴグラム（エリック・バーン）と自己抑制型行動特性（イイコ度：最新歯科衛生士教本歯科医療倫理・筑波大学宗像恒次）などを行い、自己分析をさせている。本学の学生の特徴は、エゴグラムのN型が最も多く（47.7%）、医療系に向いているキャラクターであるM型の方が少ない（38.6%）。また、自己抑制型行動特性ではイイコ中～イイコが多く、問題解決はある程度できるものの、自分にあまり自信が持てないという傾向にある。現在、通信制高校やさまざまな障がいを持つ学生も入学してきていることから、学生の多様性に対してよりきめ細やかな学習指導が求められてくる時代になってきていることを、教員自身にも自覚が必要である。

第82回（通算第165回）：2016年9月29日（木）

（座長：丸山 満）

歯科衛生士学科学生における デジタルコンテンツ活用の現状

木口友美（歯科衛生士学科）

近年、教育にICTが取り入れられ、アクティブ・ラーニングが広がりを見せている。本学歯科衛生士学科では、デジタルコンテンツの配信を段階的に行

ない、教育の効率化と学生の満足度向上を目指してきた。そこで今回、学生のデジタルコンテンツ活用状況について調査し、今後の課題について検討した。対象は歯科衛生士学科2年生37人とし平成28年6月22日にアンケート実施した。なお、対象者には、同年4月よりiPadを一人1台貸与している。

講義におけるデジタルコンテンツの活用で「十分に立った」・「少しは役に立った」と答えた者が合わせて84%、「どちらとも言えない」が13%、「役に立たない」が3%であった。また、基礎実習では、「十分に立った」・「少しは役に立った」と答えた者が合わせて95%、「どちらとも言えない」が5%で「役に立たない」と答えたものはいなかった。デジタルコンテンツをiPad本体に保存することで繰り返し見ることができるため、「役に立っている」と回答した学生が多かったと思われる。

今後は、学生が希望するデジタルコンテンツを作成し、アクティブ・ラーニングにつなげていきたい。

歯科技工士学科におけるICT教材の活用について

木下美香（歯科技工士学科）

平成27年度活性化補助金により、歯科技工士学科では、歯科技工実習室に65インチデモ映像掲示モニター、書画カメラ等の技工デモ環境を整備し、また、ウェアラブルカメラや4Kビデオカメラを導入、ICT学習コンテンツの充実化を進めている。

歯科技工実習において、従来の指導方法ではリアルタイムのデモンストレーションを1回見ても理解できない学生が目立ち、教員は個別指導を繰り返し行うなど、効率の悪さと進捗度や理解度の学生間の差が問題となっている。そこで、予習や復習として繰り返し閲覧できるICT環境を提供し、自己学習によって理解度の向上を図り、全体のレベルアップにつなげることを目標とした。

今回、顎口腔機能学実習において作成したICT教材の試験的利用を行い、歯科技工士学科の学生へ実施したアンケート結果から、具体的な課題を明らかにし、歯科技工士学科におけるICT教材の今後の展望について検討を行い報告した。

第83回（通算第166回）：2016年10月27日（木）

（座長：本間和代）

20年間における歯科技工士学科への入学状況について

相馬泰栄（歯科技工士学科）

本学も今年度で20年目を迎えましたが、開学当初に比べ入学生が減少している。その為、今後の入学者確保に役立てたいとの思いから、これまでに本学科に入学した984名の入学状況を開学からの10年間とその後の10年間で比較、検討した。開学からの10年間の入学者は594名、その後の10年間では390名（34.3%）に減少していた。入学者の男女比では男子が54%、女子が46%で変化は見られなかった。入試形態別入学者数を比較してみると全ての入試形態において減少が見られた。特に一般入試入学者は82.6%と大幅に減少した反面、AO入学者が増加したことから高校生は比較的安易なAO入試を希望する傾向が見られた。また、入学者を県内と県外で比較してみると県内入学者が464名から330名（29%）に減少したのに対し、県外入学者は130名から60名（53.8%）に減少していた。県内では様々な広報活動を行って来たが、県内からの入学者は増加しなかった。その為、開学当初からの10年間で入学者が多く歯科技工士養成所の無い群馬県、山形県、長野県及び近県の福島県、富山県での『きめ細やかな』広報活動を今後も実施し、本調査の検証が必要であるとの結論に至った。

明倫短期大学学会第15回記念学術大会の企画説明

植木一範（明倫短期大学学会常任理事会委員長）

第84回（通算第167回）：2017年1月26日（木）

（座長：江川広子）

健康寿命を志向する歯科医療とは。 ～介護予防としての口腔ケア、 口腔機能回復とメンテナンス～

河野正司（明倫短期大学学長・明倫短期大学学会会長）